

席題 竹伐り 鶴頭 秋深し
竹伐。や明るさの雲脚く
ササ塔ゆ。よしろま。竹伐り
守の文鳥の底にはさみ居り
竹を伐り。山の月を持てばより
鶴頭を飛舍の水。びつくりたり
トテなどへ。伸びる竹へ伐れ
約半の日採入れ。竹伐代。
西吟吟

秋深行車。根々風はかじのほ。

若草吟行小句會

(第十五回)

一九五二・三・二 於白石綠水居

茶屋

千葉利元著

日向利吉著

住基範著

香川義重著

内藤義也著

佐藤義也著

内藤義也著



母の日 に感謝して

全伯各地に盛大な催し

想と共に伸びる児たち

の如き

